

事業番号	381
------	-----

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	まなび創造館施設管理事業						担当部	教育委員会事務局		
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系	担当課	まなび創造館			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	事業係		
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 男女共同参画		3 男女共同参画推進体制を整備します				
		副目的									
	予算区分	款	10	項	5	目	9	大	3	中	1
	根拠法令・個別計画										
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	施設の維持管理及び貸し出しを行うことにより、スポーツ・体力づくり・健康増進の場として、まなび創造館を多くの市民に利用してもらい、男女共同参画の振興を図る。									
	内容 (手段)	<p>○25年度実施内容 まなび創造館の建物(専用部分及び共用部分の一部)の施設保守点検及び保安警備業務、環境整備業務とこれらにかかる光熱水費を含めた管理を委託した。 あさひホールの舞台機構設備、照明設備、音響設備及び舞台効果設備等を安全かつ効率的に運用し利用者のニーズに対応するため、熟練した業者に委託した。 また、平成7年ラピオビル建設から18年目に入り、設備及び建物の老朽化による修繕が必要のため予算計上し、修繕を実施した。</p> <p>【直接経費の内訳】 修繕料(2,447千円)、ピアノメンテナンス等(118千円)、施設管理委託(173,680千円) 舞台管理委託(10,115千円) パソコン教室用パソコン・施設管理器具・清掃用具借上(2,313千円) 備品購入(367千円)、修繕負担金(32,029千円)、消耗品(569千円)</p> <p>【その他財源の内訳】 施設使用料、附属設備使用料(5,012千円) ※単価については、小牧市まなび創造館の設置及び管理に関する条例による。</p> <p>◎26年度実施内容 25年度と同様に実施する。</p> <p>【直接経費の内訳】 修繕料(3,252千円)、ピアノメンテナンス等(156千円)、施設管理委託(182,313千円) 舞台管理委託(12,111千円) パソコン教室用パソコン・施設管理器具・清掃用具借上(2,393千円) 備品購入(110千円)、修繕負担金(7,505千円)、消耗品(572千円)</p> <p>【その他財源の内訳】 施設使用料、附属設備使用料(4,922千円) ※単価については、小牧市まなび創造館の設置及び管理に関する条例による。</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	214,286	233,042	221,638	208,412	
		正職員	従事者数	人	0.01	0.01	0.01	0.01
			人件費	千円	52	52	52	52
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	214,338	233,094	221,690	208,464		
対前年比	%			108.7	95.1	94.0		
財源	一般財源	千円	210,131	228,658	216,678	203,542		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	4,207	4,436	5,012	4,922		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	女性センター・学習広場1日当り利用人数	人	目標	252	258	256
実績				245	244	241	
スポーツセンター1日当り利用人数		人	目標	456	473	486	455
			実績	450	463	434	
開館日		日	目標	—	—	—	—
			実績	347	346	346	
成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26	
女性センター・学習広場利用人数	人	目標	87,540	89,468	88,986	87,843	
		実績	85,207	84,749	83,660		
スポーツセンター利用人数	人	目標	158,150	164,094	168,334	157,749	
		実績	156,280	160,318	150,238		

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	女性センター・学習広場、スポーツセンターいずれも利用人数は減少した。個別に見てみると、女性センターでは、利用件数・利用人数ともに10%増加した。学習広場では、利用件数、利用人数ともに減少した。なかでも市民ギャラリーの利用件数は10%増加したが、利用人数は30%減少した。スポーツセンターでは、施設利用において利用件数は6%増加したが利用人数は15%減少した。個人利用は微減した。				
		事業実施における課題	施設の老朽化、備品の老朽化により修繕料や修繕負担金の増加が考えられる。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	施設保守点検及び保安警備が行われなくなり、施設の安全な管理ができなくなる。				
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	施設や備品等の適切な保守管理に努める。				
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)			
	判定理由	適切な施設管理を行い、利用者のニーズに対応しながら、安全に安心して利用していただくことが必要不可欠である。					
	27年度以降の改善案	施設等の管理は計画的に適切な対応をしていく。幅広い年齢層の集客と利用率アップのため、方策を検討する。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。